

2020年5月12日

お客様各位

日産化学株式会社
農業化学品事業部
営業本部 営業企画部

週刊新潮 4月23, 30日号の『「食」と「病」「農業大国」ニッポン』の記事について

平素はラウンドアップマックスロード製品をご愛顧くださり誠にありがとうございます。

さて、週刊新潮 4月23日号、30日号に掲載された『「食」と「病」「農業大国」ニッポン』の記事において、ラウンドアップの安全性に誤解・懸念を生じる内容であったことから、下記の通り株式会社新潮社に対して抗議をいたしましたことをご報告申し上げます。

ラウンドアップ（グリホサート）は、日本、米国、欧州各国を含め多くの国々で、安全性に関するデータが厳正に審査されて登録認可されています。

従いまして、製品ラベルに記載された注意事項を守り、引き続き安心してお使いいただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

日本の内閣府食品安全委員会はグリホサートについて「神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった」と評価しており、米国、カナダ、EU、オーストラリア、ニュージーランドなど各国規制当局も同様の見解を示しております。当該記事には、前述の評価とは全く異なる意見のみが掲載されて一部のお客様からお問合せをいただきましたので、以下に具体的な項目を抜粋し、事実をご説明いたします。

■4月23日号

① 48頁 3～4段

記事本文：「グリホサートを主成分とするラウンドアップは、動物の腸内細菌に影響を及ぼすことが分かっています。（中略）腸内細菌の異常は、全身の免疫や代謝に異常を起こして免疫疾患を起こしたり、さらに脳にも影響して、一部の自閉症の一因となる可能性があります。米国の疫学研究では、グリホサート暴露と自閉症発症に相関関係があると報告されています。」

当社見解：実験室などの特定の条件下において、限られた細菌がグリホサートに感受性であることは示されています。しかし、実際の腸内細菌に影響を及ぼすかどうか重要です。腸内の細菌の影響に関する文献を徹底的に検討した結果、グリホサートが腸内の細菌に影響を与えないことが示されております。*

*: John L. Vicini et al. , 2019, Glyphosate in livestock: feed residues and animal health, Journal of Animal Science, 97,(11) 4509-4518

また、「米国の疫学研究」とは、Ehrenstein らの報告かと思われませんが、本研究ではグリホサートの暴露が不明瞭であり、さらに確立されたメカニズムが判明していないことからグリホサートと自閉症発症の間に十分な関連性を見ることは出来ないと考えます。

③48 頁 5 段

記事本文：「受容体には他にグリシン受容体があって、グリホサートはこれに結合して神経障害を引き起こす可能性がある」

「グリホサートは（中略）発達障害を引き起こす危険性があるのです」

当社見解：グリホサートが、グリシンがその受容体に結合する能力を阻害することは実証されていません。グリシン受容体に対して作用することを示した証拠もありません。したがって、グリホサートが発達障害を引き起こすことは科学的に立証されていません。

④49 頁 5 段～50 ページ 1 段

記事本文：「何よりも怖いのは、様々な毒性が世代を越えて遺伝することだ」

「こんな実験があります。（中略）胎児の発育不良や胎盤形成異常が起こっています」

当社見解：グリホサートが遺伝子には影響を与えず、何世代か後に遺伝子機能を制御する部分の異常を起こすと主張していますが、そのような現象は現段階で科学的に検証されていません。

⑤50 ページ 5 段

記事本文：「ワシントン大学の研究チームは、グリホサートにさらされると、がんリスクが 41%増大する。と学術誌に発表した。」

当社見解：この論文は Zhang らの報告と思われませんが、この論文自体は何ら新しいデータを報告しているわけではなく、それまでに報告された疫学調査の報告を分析しなおし見解を述べたものにすぎません。この論文の基になっている疫学調査 6 つの内、3 つは他の農薬の影響が排除できておらず信頼できるデータとは言えません。このようなことから多くの研究者から本論文は批判されています。

さらに EPA（米国環境保護庁）からは反論*の文書が発表されており、当該論文の解析方法には問題があると言っています。そのうえで、EPAはこの論文によってグリホサートに発がん性がないという EPA の結論を変更する必要がないことを確認しています。また、ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)からも、BfRはすべての調査結果よりグリホサートの暴露と非ホジキンリンパ腫の発症の因果関係は立証されていないとみているという声明が発表されています。**

*: Glyphosate: Epidemiology Review of Zhang et al. (2019) and Leon et al (2019) publications for Response to Comments on the Proposed Interim Decision

<https://www.epa.gov/sites/production/files/2020-01/documents/glyphosate-epidemiological-review-zhang-leon-proposed-interim-decision.pdf>

** : New meta-analysis of glyphosate-based plant protection products does not alter the assessment of the active substance

<https://www.bfr.bund.de/cm/349/new-meta-analysis-of-glyphosate-based-plant-protection-products-does-not-alter-the-assessment-of-the-active-substance.pdf>

■4月30日号

⑦42頁 1段、44頁 5段

記事本文：「グリホサートには発がん性だけでなく、腸内細菌叢を変え、生殖機能障害など世代を越えて影響を与える可能性が指摘されている」

「グリホサートが引き起こす様々な健康障害で」

当社見解：根拠が示されておりませんが、4月23日号の内容と同じであれば、前述の通り実証されたものは1つもありません。

このようなごく一部の少数の論文、事象などを基にした一方的な主張によって一般の消費者の不安を煽る記事は、公正な報道とは言い難いものです。貴誌記事を読まれ疑念を持たれたお客様から、当社にラウンドアップの安全性についてお問い合わせをいただいております。貴誌を読まれた多くのお客様は、国内で使用される当社ラウンドアップ製品の安全性に対して不安を感じておられます。このような事実は看過できません。

以上